

# 障害者生活支援センターたかまつだより

## 講演会「東日本大震災 障害者施設で起こったこと」

令和 3 年 10 月 30 日（土）、香川県内の障害福祉サービス提供事業所の職員を対象とし、高松圏域自立支援協議会の身体障害者支援部会主催で講演会が実施されました。

テーマを「東日本大震災 障害者施設で起こったこと」として、講師に、東日本大震災をご経験された、宮城県石巻市にある社会福祉法人石巻祥心会 サンネットなごみで管理者をされている鈴木徳和さんをお迎えしました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、鈴木さんには現地の宮城県からオンラインでご講演いただきました。参加者の参加方法も、会場となったかがわ総合リハビリテーション福祉センターの研修室への来場と、ZOOM によるオンラインでの参加の両方で実施されました。

東日本大震災が起こった時、講師の鈴木さんは、管理者をされている障害者施設で勤務中でした。勤務されていた建物は無事でしたが、同じ法人内のグループホームが全壊したり津波で流出するなど被害を受けたそうです。それでも、震災当日には、利用者やそのご家族の避難所として被災しなかった施設を開放されたり、翌々日には施設の一つを福祉避難所として提供し、病院から障害者の受け入れを開始されました。また、発生から 2 か月後には、法人で仮設住宅を建設したそうです。

震災後に困ったことは、ライフライン復旧の遅れ、病院や薬局が機能していないため薬がないなどの他に、ボランティアの受入れ調整とのことでした。ボランティアの方が来ても、1～2 か月後には交代で別の方が来られ、その都度同じことを何度も説明する必要があり、利用者さんの生活にも支障をきたしたそうです。

施設側の課題として、利用者さんの安全確保・安否確認方法・個人情報入手方法の課題、他の法人や組織との連携の課題、職員の多様なスキルの課題などが挙げられていました。また、震災が起きたとき、法人として地域支援をするのか、利用者さんを守り抜くのか、職員や職員の家族を優先するのかなどの行動を、法人単位で事前に決めておくことも大事とのことでした。

被災直後は、とにかく「自助」で乗り切るしかない、まずは自分の命を守るためにはどのようにすればよいかを考えておく、ということも教えてくださいました。

昔から地震や津波が多い宮城県に比べて香川県は比較的災害が少ない地域であり、住民の防災に対する意識にも地域性があると思います。しかし、もし災害が起きて被害が大きくなってから対応していくのでは遅いです。自分たちの命をどのように守るか、どのようなことができるのかなど、防災について事前に考えておく必要があるのではないのでしょうか。

鈴木さんの講演の後はグループワークを行い、講演の感想や各施設での防災対策などが話し合われ、他の施設の取り組みを知ることができて良かったという声が聞けました。また、講演会後のアンケートでは、「法人としての方向性を明確にしておく必要があると感じた」「日頃の防災訓練への姿勢を見直さなければならぬ」といった回答があり、災害時の利用者さんに対するアプローチや、事業所における体制作りなどについて、改めて考えるきっかけとなったと感じました。

支援センターたかまつは、今回の講演会主催である高松圏域自立支援協議会身体障害者支援部会のメンバーとなっています。身体障害者支援部会では、今後も身体障害に関する困りごとの改善や支援の促進、地域への理解促進などを行っていききたいと思います。



### 【お問い合わせ先】 障害者生活支援センター たかまつ

〒761-8057 香川県高松市田村町 1114 番地 かがわ総合リハビリテーション福祉センター内

電話 087-815-0330 / FAX 087-867-0420 / ホームページ <http://www.kagawa-reha.net/shogai-shien.html>

利用時間 月～金曜日、第 1・3 日曜日 午前 9 時～午後 5 時（第 2・4 金曜日は午後 7 時まで）

※年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）及び祝日を除く